海　況　速　報

平成11年度　第１号（通算　No.67）
平成11年５月17日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水産試験場海洋環境部
（TEL 0135-23-4020）

４月上旬～下旬の海況

【日本海海域】

本道西岸沖を北上する対馬暖流は，３つの暖水渦が流域内に形成されていることで蛇行流路をとっているようです。暖水渦の中心は津軽海峡西方（200m層水温７℃以上），北緯43度岩内沖（200m層水温３℃以上），北緯44度留萌西方（200m層水温４℃以上）にあり，津軽海峡の西方の渦は前回（２月）から発達したものです。

北緯42度30分線上を北上する対馬暖流の流量は，この時期のほぼ平均値となっています。

水温について見ると，北緯45度30分線では，累年平均(*1)に比べ，礼文島北西定点（東経140度53分）では200m層から50m層まで-1.7～-1.3℃，表面で-0.9℃，東経141度25分では，100mから50m層まで-1.2～-1.1℃，表面では-0.7℃となっています。北緯44度30分線では，累年平均に比べ，東経140度20分の200m層で-0.2℃，100mから50m層まで-0.9～-0.6℃，表面で+0.8℃となっています。東経141度15分以東の天売・焼尻島北側では，100m層で-1.5℃，50m層で-1.6～-1.5℃，表面で-0.8～-0.7℃となっています。北緯43度30分線では，累年平均に比べ，石狩湾湾口部（東経141度00分）の50m層で-0.7℃，表面で+0.8℃，積丹岬北西沖定点（東経140度20分）では，200m層で-0.4℃，100m層で-0.7℃，50m層で+0.3℃，表面で+1.1℃となっています。瀬棚沖の最も岸寄りの定点（北緯42度30分，東経139度40分）では，累年平均に比べ，200m層で-0.1℃，100mから50m層まで+1.0～+1.1℃，表面で+0.2℃となっています。津軽海峡西方暖水渦の東側冷水域にある，松前西方で最も岸寄りの定点（北緯41度20分，東経140度00分）では，累年平均に比べ，200m層で-0.8℃，100m層で-1.2℃，50m層で-0.1℃，表面で+0.2℃となっています。北緯44度30分以北の100m以浅の水温は最近の10年間の中で最も低いところが多くなっています

余市における３月下旬以降５月上旬までの沿岸水温（旬平均）は，平年値に比べ，３月下旬から４月下旬まで-0.9～-1.8℃と「平年並み」から「かなり低い」範囲まで下降を続けていましたが，４月下旬は+0.2℃，５月上旬は-0.4℃と平年並みになっています。

【道東太平洋海域】

三陸沖に大型の暖水塊があり，この暖水塊の北縁（北緯40度00分から30分の間）から暖水の腕が東経143度30分線上を北方に襟裳岬近海まで伸びています。根室半島から襟裳岬沖まで道東沿岸に沿って流れていた沿岸親潮(*2)は，襟裳岬から南方にこの暖水塊の腕の東側に沿って流れています。この離岸した沿岸親潮は，大型暖水塊の北縁に達した後，暖水塊の東側に沿って，襟裳岬東南東はるか沖合にある暖水域（中心：100m層水温６℃以上）の南側を流れ始めています。

水温について見ると，道東沿岸の50m層で最も岸寄りとなる定点の水温は，根室半島沖（北緯43度05分，東経145度45分）で0.0℃（累年平均比-0.8℃，前年比+0.1℃），厚岸沖（北緯42度55分，東経145度00分）で-0.4℃（累年平均比-1.0℃，前年比-0.3℃），白糠沖（北緯42度45分，東経144度00分）で-0.7℃（累年平均比-1.2℃，前年比-0.7℃）となっています。厚岸沖と白糠沖では最近の10年間で最も低い水温となっています。

【道南太平洋海域】

津軽海峡から太平洋海域に流出してきた津軽暖流は沿岸モード(*3)になっています。道南太平洋恵山岬以北の海域では，水温３℃以下の親潮系の水は白老沿岸部50m層に認められるだけで，黒潮系の水と親潮系の水が混合した水に広く覆われています。尻屋崎北東方向，津軽暖流のすぐ沖側の50m層に水温１℃以下の沿岸親潮の水が分布していることから，道東沿岸から襟裳岬をかわして道南太平洋海域に流れていた沿岸親潮は，その後補給を断たれたようです。

水温について見ると，浦河南西方観測線では，累年平均に比べ，浦河沿岸の定点（北緯42度10分）の100m層で+1.7℃，50m層で+1.8℃，表面で-0.2℃となっています。白老南方観測線では，累年平均に比べ，白老沿岸の定点（北緯42度20分）の200m層で+1.7℃，100m層で+0.3℃，50m層で-0.3℃，表面で+0.4℃となっています。恵山岬東側定点（北緯41度50分）では，累年平均に比べ，200m層で+1.3℃，100m層で+0.4℃，50m層で+3.0℃，表面で+4.9℃となっています。下北半島北側定点（北緯41度30分）では，累年平均に比べ，200m層で+0.2℃，100m層で-0.1℃，50m層以浅でで0.0℃となっています。白老沿岸の定点の200m層と恵山岬東側定点の50m層以浅では，最近の10年間で最も水温が高くなっています。

【オホーツク海海域】

表面水温３℃以上の海域に着目すると，前年同期（４月）では宗谷海峡から知床半島まで達していましたが，今回はサロマ湖までとなっています。水温３℃等温線は，50m層では雄武・紋別沖の最も岸寄りの観測点で見られますが，前年のように100m層では見られません。水温について見ると，最も岸寄りの表面水温は，浜頓別沿岸部で3.4℃（累年平均比-0.7℃，前年比-1.0℃），紋別沿岸部で2.6℃（累年平均比+1.0℃，前年比+0.6℃），網走沿岸部で0.7℃（累年平均比-1.7℃，前年比-4.1℃）となっています。最も岸寄りの50m層水温は，浜頓別沖で2.6℃（累年平均比-1.3℃，前年比－0.4℃），紋別沖で3.0℃（累年平均比0.0℃，前年比-1.1℃），網走沖で0.4℃（累年平均比-0.4℃，前年比-2.0℃）となっています。浜頓別沖の50m層の水温は，最近の10年間の中で最も低い水温となっています。オホーツク海海域の表面水温は，全体的に見ると最近の10年間の中で最も低い状態にあるようです。

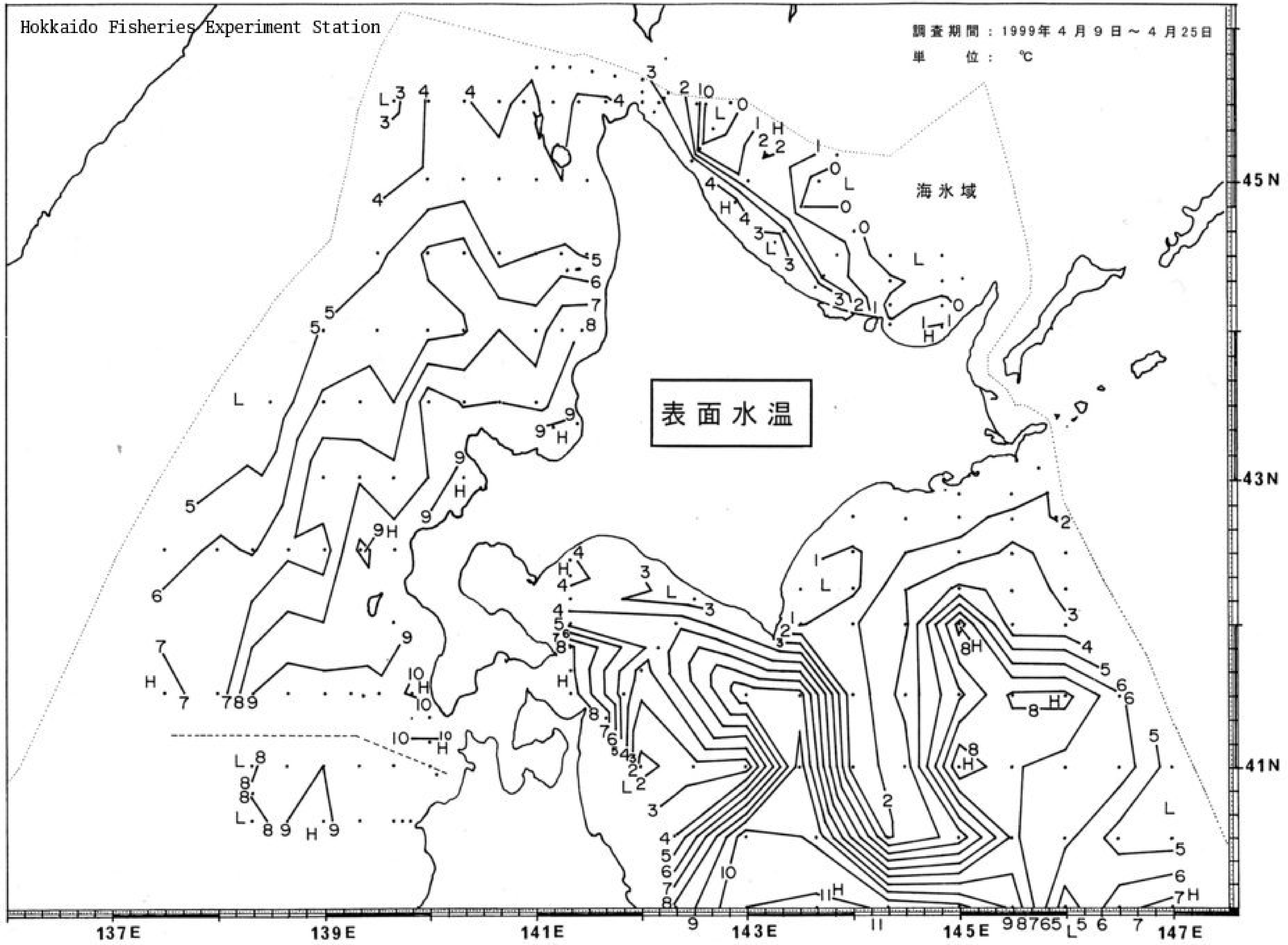
資料	〔観測期間〕	
青森水試　（東奥丸）	平成11年４月９日～同４月10日	（東北日本海海域）
稚内・中央水試（北洋丸）	平成11年４月12日～同４月16日	（道北日本海海域）
稚内・中央水試（北洋丸）	平成11年４月12日～同４月13日	（オホーツク海海域）
稚内・網走水試（北洋丸）	平成11年４月19日～同４月21日	（オホーツク海海域）
釧路水試　（北辰丸）	平成11年４月13日～同４月19日	（道東太平洋海域）
函館水試　（金星丸）	平成11年４月19日～同４月21日	（道南太平洋海域）
中央水試　（おやしお丸）	平成11年４月20日～同４月25日	（道西日本海海域）

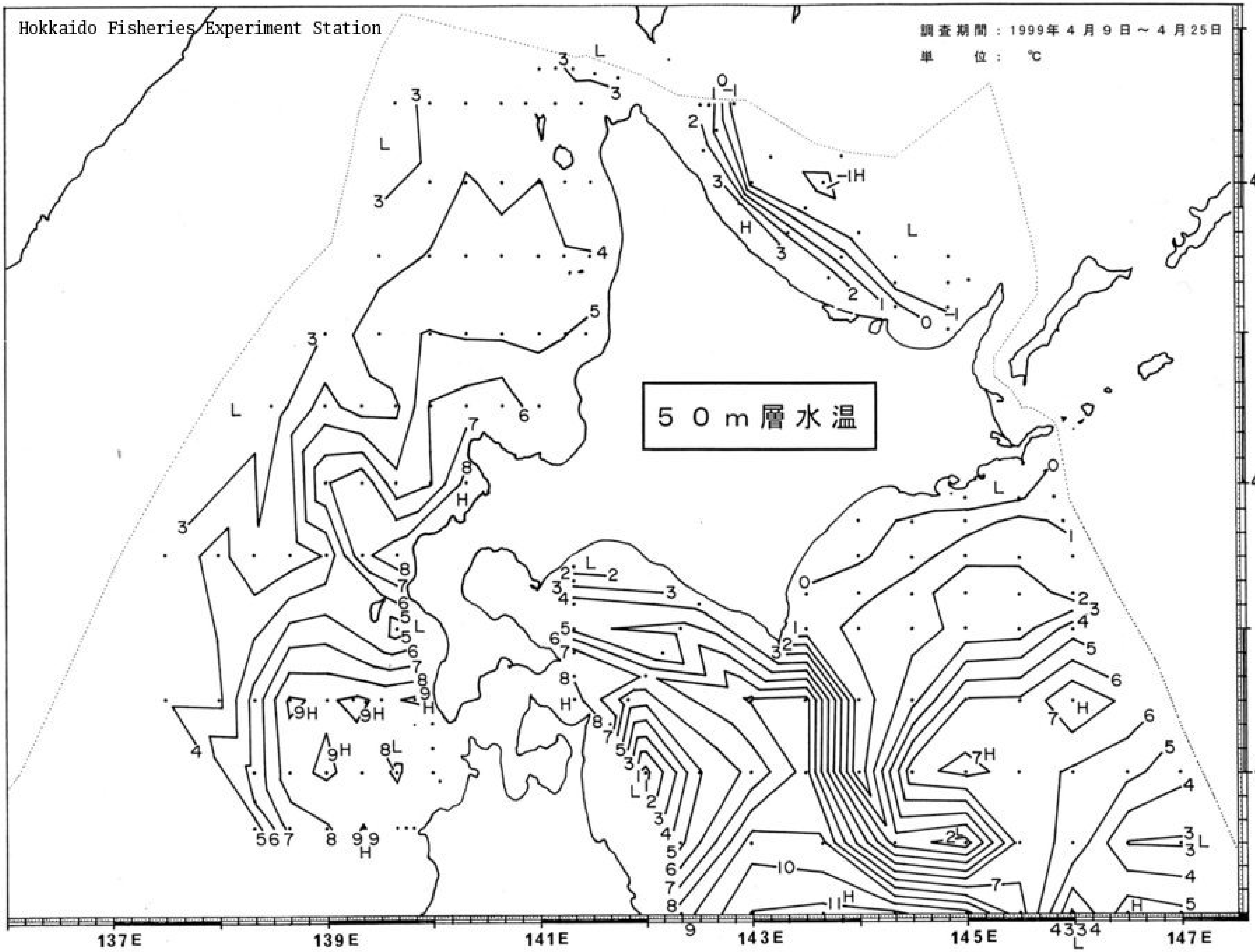
*1: 平成元(1989)年～平成10(1998)年までの平均値を使用しました。

*2: オホーツク海の海氷の融氷水を含む親潮として特に沿岸親潮という名前が付けられています。今回は50m層で水温１℃以下，表面水温で２℃以下の範囲がおおよその分布範囲になっているようです。

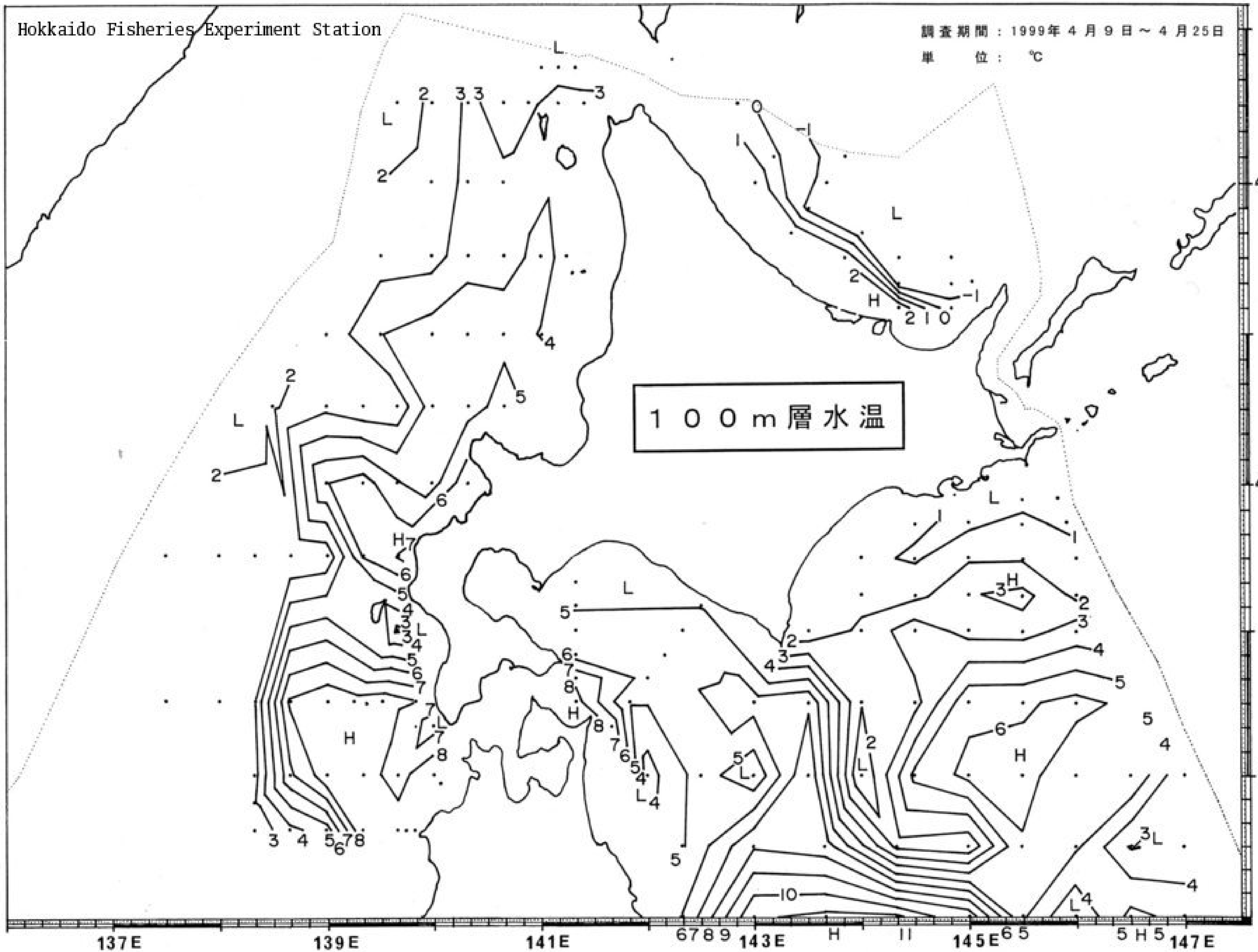
*3: 津軽暖流が青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を，津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。

（中央水試　海洋部）

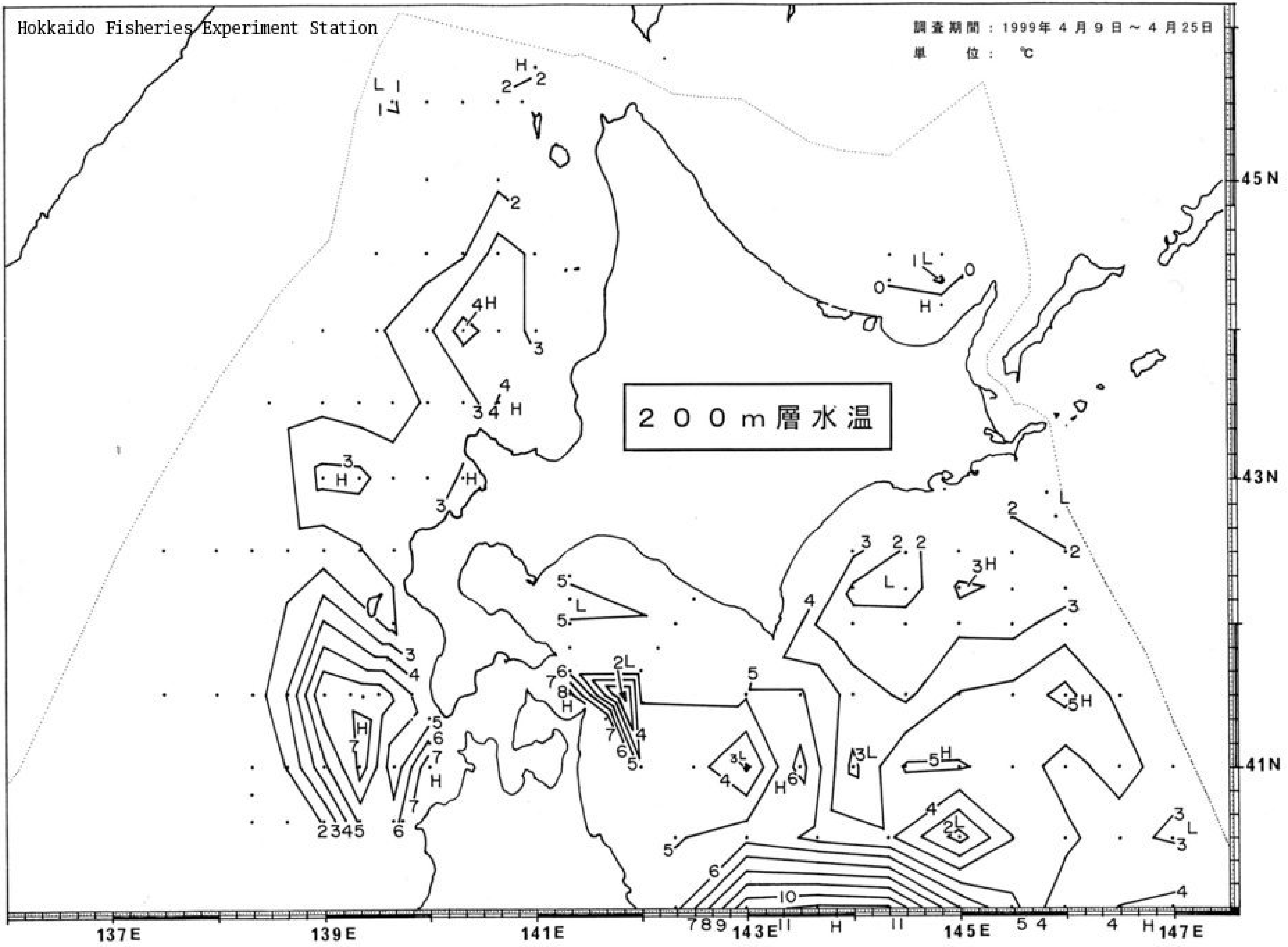

Hokkaido Fisheries Experiment Station
調査期間：1999年4月9日～4月25日
単　位：℃
表面水温
海氷域
45N
43N
41N
137E
139E
141E
143E
145E
147E



Hokkaido Fisheries Experiment Station
調査期間：1999年4月9日～4月25日
単　　位：　℃
50m層水温
45N
43N
41N
137E
139E
141E
143E
145E
147E



Hokkaido Fisheries Experiment Station
調査期間：1999年4月9日～4月25日
単　　位：　℃
１００ｍ層水温
137E
139E
141E
143E
145E
147E
45N
43N
41N


Hokkaido Fisheries Experiment Station
調査期間：1999年4月9日～4月25日
単　　位：　℃
２００ｍ層水温
45N
43N
41N
137E
139E
141E
143E
145E
147E